

JPSCS ニュースレター 2013年5月1日

日本医療安全学会(Japan Society of Clinical Safety; JPSCS)の設立にあたり

[www.jpscs.org](http://www.jpscs.org)

日本医療安全学会理事長 / 国際医療リスクマネジメント学会会長・理事長  
酒井亮二

国際医療リスクマネジメント学会(IARMM)はスイスにて2002年に開設され、2006年から東京に事務局を移転いたしました。日本では日本予防医学リスクマネジメント学会(JSRMPM)も2002年に開設しました。両学会とも、医療でのリスクマネジメントに関する様々な課題、すなわち、医療安全(医科と看護)、医薬品安全、医療機器安全、歯科医療安全、感染症対策、災害での医療対策、食品安全、環境健康安全、放射線健康安全などの諸課題に関する多数の学術集会を開催してきました。日本以外では、イギリス、スウェーデン、ロシア、カナダ、コスタリカ、マレーシアおよびイランの学会員によりこれらに関する学術集会が開催されています。

さて、IARMMでは2012年にロンドン大学にて第1回医療安全世界会議を開催し、医療安全に特化した本格的な国際交流の場を設立しました。2013年にはドイツ、2014年にはスペインで医療安全の本格的な世界会議の開催準備が進行しております。

他方、日本政府では近年、医療安全(医科と看護)、歯科医療安全、医薬品安全および医療機器安全に関する専門職制度を全国的に導入し、これらによる医療安全文化の促進を進めております。その結果、日本の医療界では世界に類を見ない速度で医療安全文化のインフラ整備が進行し、膨大な数の安全実務担当者集団が形成されました。このような社会背景の下で、日本の医療現場では、多様な安全分野の実務担当者を中心とした学会運営の場が必要になっています。

以上の経緯により、IARMMの日本人会員を中心に、このたび日本医療安全学会が設立されました。

日本医療安全学会が日本の医療界で広く医療安全に関する学術振興ならびに医療現場の安全文化の向上に資するには、医療以外での安全に関する諸専門家との学際共同が不可欠です。